

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 泉台 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・どの領域や観点とも全国平均を大きく上回っている。特に領域「書くこと」や観点「書く能力」は顕著である。日常から書くことについての指導の積み重ねの成果であると考え。今後も継続的な指導を行う。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくなった問題	・文の中で漢字を正しく使う問題や文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題の正答率が大幅に全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	・大きな問題はない。いずれの問題も全国平均と比較し、正答率は大幅に高く、また無回答率は大幅に低い。	

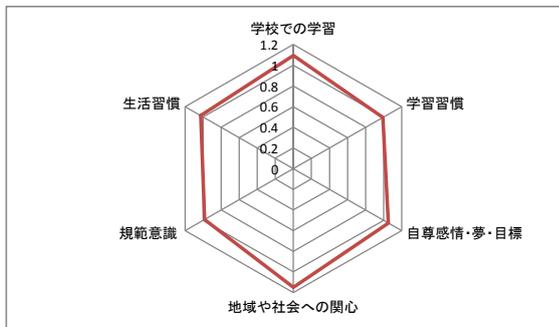
国語B	全体的な傾向や特徴など	・どの領域や観点とも全国平均を大きく上回っている。特に領域「書くこと」や記述式の問題は顕著である。日常から書くことについての指導の積み重ねの成果であると考え。今後も継続的な指導を行う。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくなった問題	・目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題や目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題の正答率が大幅に全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	・大きな問題はない。いずれの問題も全国平均と比較し、正答率は大幅に高く、また無回答率は大幅に低い。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・どの領域や観点とも全国平均を大きく上回っている。特に領域「数と計算」や「図形」は顕著である。基礎基本に重点をおいて補充学習を積み重ねた成果であると考え。今後も継続的な指導を行う。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくなった問題	・小数の除法や円周率の意味理解を問う問題の正答率が大幅に全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	・二つのシートの混み具合を比べる式(単位量当たりの大きさを求める除法)の意味理解を問う問題の無回答率が全国平均程度である。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・どの領域や観点とも全国平均を大きく上回っている。特に領域「数と計算」や「図形」と記述式の問題は顕著である。応用問題や記述式問題に対しても、苦手意識をもち、粘り強く取り組むことができるようになっている。今後も継続的な指導を行う。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくなった問題	・「一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°」になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く問題の正答率が大幅に全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	・大きな問題はない。いずれの問題も全国平均と比較し、正答率は大幅に高く、また無回答率は大幅に低い。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・どの領域や観点とも全国平均を大きく上回っている。特に、観点「自然現象への関心・意欲・態度」は顕著である。また、無回答率が極めて低く、苦手意識をもち、粘り強く取り組むことができるようになっている。今後も継続的な指導を行う。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくなった問題	・「食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだした結論を書く」問題の正答率が大幅に全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	・「太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用させる」問題が全国平均程度である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会への関心が全国平均よりも高く、地域の行事等へ楽しみながら参加している児童が多い。 ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童は全国平均よりも高い。今後は家庭学習の質を向上させていく必要がある。 ・将来の夢や希望をもっている児童は全国平均よりも高い。今後はそれぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせる必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学力向上のため朝の学習の時間に取り組む内容を曜日ごとに決め、全校で一斉に実施。 ・担任外教諭による少人数指導や個別指導を計画的・継続的に実施。基礎学力定着のために3年生全児童を対象としたひまわり学習塾の実施。 ・学力定着サポートシステムの学習プリントを朝自習に活用し、基礎基本の定着を図る。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級の講座や特設授業を保護者や児童に行い、テレビゲーム等メディアの接触について指導・啓発を行う。PTA協議会が行っている「ケータイ夜10時電源OFF運動」の周知を行い、PTAと一緒に啓発を進める。 ・学級懇談会や個人懇談会、学校便り等を通して、家庭学習や読書の価値を保護者に伝え、その徹底を図る。
--